



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 No.34 2011.11

目次

巻頭言 国立大学法人化の中で附属図書館は どう変わったか	1
特集 第7回『言語力』大賞コンテスト	3
特集 新たに指定された貴重資料	5
本との出会いを楽しむ〈第8回〉	7
図書館に関する話題〈第8回〉	8
Library News	9
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	11

## 国立大学法人化の中で附属図書館は どう変わったか

学長 遠藤 正彦



国立大学は、国立大学法人化されました。このことは、国立大学が設置形態を変え、競争と評価の中で、自主・自律することにあります。そして、特に地方大学としては、地域に密着し、地域に開かれた大学として機能分化しなければなりません。資源が少なく、財政基盤の脆弱な本学の国立大学法人化の歩みは、大変困難でありました。当然附属図書館も財政的には以前にも増して厳しいものでした。

私が学長に就任し、附属図書館長に清水俊夫教授（理工学部 平 14.4-15.5）、続いて、南條宏肇教授（理工学部 平 15.6-16.3）に就任をお願いしました。当時は、国の方針として進んでいた図書館のマイクロフィルム化が中止され、急速に進む電子図書館化、即ち電子ジャーナルの導入にどう対応するかが最重要課題でした。外国雑誌の価格の高騰が始まり、一方大学の財政逼迫が進み、このため購入雑誌の削減が迫られました。

国立大学法人化において、多くの大学が附属図書館を情報の一部署と位置付けており、本学でも附属図書館長を施設・マネジメント担当の中澤勝

三理事の併任としました。しかし、やはり附属図書館を従前のように一部局とし、雨森道紘教授（理工学部 平 17.4-18.6）に附属図書館長就任をお願いしました。理工学部教授を続けたのは、電子図書館化に最も影響を受けるのは、理系、特に理工学部だったからです。ここまでに購入雑誌の削減と、電子ジャーナル化が進みましたが、財政的問題は尚解決してはいませんでした。

その後、図書館長は医学研究科 正村和彦教授（平 18.6-20.3）に交代しました。従前より医学部分館・保健学科分室のあり方が問題であり、附属図書館本館と医学部分館の電子ジャーナル導入の連携をお願いしました。こうしてようやく、本館・分館の一元化、経費削減、電子ジャーナル導入に一定の方向が定まりました。

次に文系の長谷川成一教授（人文学部 平 20.4-）をお願いしました。長谷川館長の下で、新しい図書館のあり方の検討が進められました。本学附属図書館の電子ジャーナル導入と、経費削減による図書購入の抑制は、当然図書館の理系化が進み、一方、大学自身も産学官連携の立場から、理

系化が進みます。そこで、平成 20 年度より文系図書整備 5 ヶ年計画をたて、5 年で 1 億円を投入することにしました。これが、今年 4 年目で文系図書は確実に充実してきました。

一方、平成 16 年 6 月に発足した、弘前大学出版会は、着実な歩みを続けて、有限責任中間法人（現一般法人）大学出版部協会に加盟も許され、国立大学法人化後の大学出版会のあり方の一つのモデルと目されるに至りました。附属図書館、出版会、大学の歴史を語る資料館、そして理系の機器分析センターは、大学のレベル・アクティビティの重要なバロメーターの一つと目されています。したがって、附属図書館と出版会の良好な関係が重要で、附属図書館の中に出版会のオフィスを設けました。附属図書館は、大学出版部協会加盟の出版図書の購入を開始し、附属図書館内に大学出版部協会加盟大学出版物コーナーを設置しました。この事を伝え聞いた一部の出版協会加盟大学が驚きました。

弘前大学の前身校、青森県師範学校と青森医学専門学校は、第二次世界大戦の青森大空襲により焼失し、当時のことを現在に伝えるものはほとんど残っていません。しかし、もう一つの前身校・旧制弘前高等学校には古い資料が附属図書館始め学内数カ所に未整理のまま放置されていました。この資料の整理が、長谷川館長の指揮の下に行われました。この作業の中で「津軽領元禄国絵図写」、「太宰治の旧制弘前高等学校入学時の写真」等が発見されました。これらの資料は、弘前大学が昭和 39 年以来出陣しているねふた祭の「ねふた絵」や「太宰治自筆ノート」等と共に、新設された「貴重資料保管室」に保存されています。

本学の歴史を語る「資料館」設置の準備が、長谷川館長を委員長とする資料館設備準備委員会の下で開始されました。平成 24 年 10 月開所になり

ますが、本学附属図書館と共に、本学の重要なステータスシンボルになります。

こうした中で、附属図書館としての所蔵コレクションが増えました。「ピーターパン」の著者である英国エジンバラ大学総長のジェームス・マシュー・バリのほとんどすべての著書の寄贈を受けて作られた「ピーターパン・バリ文庫」、本学の前身の一つ青森県師範学校の卒業生で、戦後の代表的漫画家・手塚治虫、赤塚不二夫、藤子不二雄等を育てた名編集者 加藤謙一氏の遺族からの寄贈による「加藤謙一文庫」、本学 松木明知名誉教授から寄贈されたウィリアムオスラーコレクション、医学古典叢書の復刻版等の「松木文庫」があります。

学生の読書離れと共に附属図書館の学生利用の低下に対応し、閲覧室の拡張、総合情報センターのパソコン端末を置く「PC サテライト」の新設、学生が少人数で図書館資料を元にディスカッション等の行える「ラーニングスペース・スクエア」等を設置し、開館時間も延長されたため、学生の利用度も上昇しています。更に学生の読書離れを危惧し、学生の言語力向上をめざして、学生自ら書いた小説・評論・詩歌等のコンテストを行う「学生言語力大賞コンテスト」を実施しています。

国立大学法人化により、大学が自主・自律を求められる中、附属図書館は大学の教育研究の中心として、新しい機能をもって重みを一層増してきました。そして、大学が地元にかかれた大学として市民への開放、学外の他の図書館の連携も強まりました。これには、長谷川館長以下の図書館運営委員、職員等の絶大な努力の成果です。そして、最近頃に、学外からの本学の評価が高まっていることに附属図書館は大きく寄与しています。私の学長退任に当たり、関係諸氏に心からの敬意を表し、御礼申し上げます。

（えんどう まさひこ）

# 特集 第7回『言語力』大賞コンテスト

## 第7回弘前大学学生『言語力』大賞コンテスト 受賞者一覧

I : 文学作品部門 (ジャンルは自由)				*応募総数 22点
大賞	人文学部3年	西谷	早織	「匂わぬ金木犀」
優秀賞	農学生命科学部1年	川田	健登	「虹のみえる町」
〃	人文学部2年	岡部	麻由	「わすれんぼうさん」
〃	農学生命科学部2年	名取	史晃	「好き・嫌い」
佳作	教育学部4年	前田	泰裕	「真か相(うそ)か」
II : 評論部門 (テーマ「東日本大震災」)				*応募総数 2点
優秀賞	教育学部4年	佐藤	雄哉	「[拡散希望]が広げたもの」

★受賞作品公開★<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/guidetop/gengoryoku/>

## 大賞受賞者の声

### 小説を書く

#### 第7回言語力大賞 大賞受賞 人文学部3年 西谷 早織

『言語力』大賞コンテストのことを知ったのは、偶然でした。確か、OPAC を利用しようと、附属図書館のホームページへアクセスした時のことだったと思います。コンテストの名前だけなら聞いたことがあったのですが、どういったものかまでは把握していませんでした。それで気になって調べてみた、というのが大体の経緯です。そういう訳で、大学も三年を過ぎた今になって、私はようやくこのコンテストに挑戦する機会を手に入れることが出来ました。コンテストには文学作品部門とテーマ部門がありましたが、小説というものは書いたことが無いし、物語を考えてみるのが楽しそうに思われて文学作品部門の方を選ばせていただきました。ところで、小説を書く機会というのは人生の中でそう多くはないのではないかと、今の歳になって思います。小学校、中学校、高校の国語の授業を通して、詩や短歌、俳句、作文を書くことはあっても、小説を書くことはなかったと思

います。それは決して、私だけではないでしょう。小説という形で物語をつくっていくことは、考えてみればとても自由で、そう言った意味で子どもの得意そうなことのように感じられます。だから余計に、成人した今になって小説を書いたことが不思議に思われるのです。実際、小説を書いているときには、文章を作っているという感覚よりは、空想をしている感覚の方が強かったように思います。頭の中のスクリーンに像を浮かべる、という表現をよく耳にしますが、まさにそのスクリーンに絵を描いているような、もしくは映画を撮って映しているような、とにかく映像に比重が大きく傾いた作業でした。そして、頭の中に浮かび上がっているその場面に適し、尚且つ自分が読んで最もしっくりくる音の言葉を当てはめていくことを続け、今回の小説は完成しました。思い返せば、国語よりも美術や音楽に近い気がします。

大学生活の中で出来るだけたくさんの方に挑

戦すること、たくさんを経験することが、入学した時からの私の目標でした。その挑戦の一つがこうして実を結んだことを大変嬉しく感じています。今この文章を偶然読んで下さっている誰かが、来年の『言語力』大賞コンテストに応募す

るのかもしれませんが。そんな風に偶然が繋がっていくのなら、それこそ小説みたいだと、今からわくわくしています。いつか一冊の本になるくらい、末永くこのコンテストが続いていくことを願っています。

(にしや さおり)

## 審査委員から

### 読者にやさしい文章を

第7回言語力大賞審査委員 人文学部教授 奥野 浩子

今回、久しぶりに「言語力」大賞の審査員を引き受けました。過去数回の審査員経験でも感じましたが、優劣・順位をつけるという作業は「苦しさ」を伴うものでした。それでも、一定の基準で選考しました。「読者にやさしいか」という基準で読んでみました。テーマが一貫しているか、場面設定に無理はないか、行間に含みを持たせる書き方か、情景に人物の気持ちを代弁させているか、などなど。読み手にやさしい文章は、音楽が聞こえてくるようで一気に読むことができ、読んだ後に一定の物語世界が残るものでした。

最近、授業で学生が答える日本語がよくわからないことが増えてきました。特に、英語の授業で英語を日本語にしてもらおうと不思議なことがよく

あります。「自分でもわからない」日本語を言う学生がいます。「英語で」表わされていることを「日本語で」表わすことが求められているのに、英単語を日本語に置き換えて日本語らしき順序にして終わりのようです。これでは「わかった」ことにはなりません。自分でもわからないことは他人にもわかりません。

「言語力」大賞に応募することを考えている学生には、自分が思い描く作品世界を「適切な」日本語で表わすことができているかを吟味してから応募することを薦めます。タイトルも作品の一部であることを忘れないでください。今後も審査員を悩ますような力作を期待しています。

(おくの こうこ)

### 審査員の体験と苦渋の選択

第7回言語力大賞審査委員 保健学研究科准教授 稲葉 孝志

書斎の本棚には雑多な書籍が積まれているが、一編ほども玩読したものはない。文学とは縁遠い私が「言語力」大賞コンテストの審査員として連座しようとはゆめゆめ考えもしなかった。

文学作品部門22編、テーマ部門2編の応募がありました。何れの作品も構成・表現力豊かで、評価に値する箇所が随所に見られ、凡作とは言い難く優劣付け難いものでした。現今の大学生の中にヒトとヒトとの意思の疎通を願う言葉（文字文化）に魅力を感じ、感性を磨いている若者が居る

ことに安堵しました。その中で特に読後感や現代社会人の精神的内面を映し出す感性が行間に滲み出ている作品に惹かれ苦渋の評価基準と致しましたが、読者によっては千種万様と考えます。難を申せばコンテストの審査には文字文化に精通される審査員複数の選定を望みます。このことは応募学生の益々の「言語力」コンテストへの志気を高邁するかも知れません。さらには、可能であるならば他大学との交流装置を先導されたらとも考えます。いずれにしても弘前大学の図書館において

文字文化を育む本企画は継続すべきと思いますし、ますますの発展を望みます。

(いなば たかし)

## 「言語力」大賞コンテスト審査委員を務めて

第7回言語力大賞審査委員 理工学研究科教授 渡辺 孝夫



普段は小説の類をほとんど読まない私ですが、今回「言語力」大賞コンテストの審査委員を務めました。ほんとうに務まるか不安でしたが、今は無事終えてほっとしています。

いざ作品を読み始めますと、物語の以外な展開に感心したり、登場人物の気持ちはどんなだろうと考えたりして、とても楽しめました。弘大生の「言語力」はレベルが高いと思います。今年は、惜しくも入選にはならなかった作品にも、個人的にはなかなか素晴らしいと思えるものが多数ありました。みなさん、来年も是非挑戦して欲しいと思います。

一方で、やはり評論部門の応募が少ないのが課題です。学生さんの立場としては、「評論」と言わ

れると何か堅苦しい感じがしてしまうのかもしれませんが。あるいは、何を書いたら良いのかきっかけがつかめないのかもしれませんが。思い切って文学作品部門を小説のみにして、その他のジャンル（評論、随想、詩、ノンフィクションなど）をまとめて自由作品部門にするのはいかがでしょうか。あるいは応募のポスターで、「評論」にはこんなことを書いて下さいと簡単な説明を加えると良いかもしれません。

それにしましても、この「言語力」大賞コンテストはとても良い企画だと思います。作品を読みながら、一所懸命に書いている学生さん達の姿が思い浮かびました。今後の益々の発展を祈念しています。

(わたなべ たかお)

## 特集 新たに指定された貴重資料

### 「秋田阿仁鉱山関係絵図について」

附属図書館長 長谷川 成一



このたび、附属図書館所蔵の「秋田阿仁鉱山関係絵図」が、新たに貴重資料に指定されました。同絵図は、5点（絵図は、<sup>しき</sup>鋪と数えます）の各図から成り立っています。

本学では、昭和40年(1965)、旧文理学部改組の際に、交付された機関研究の経費によって多くの書籍・資料が購入されましたが、当該の絵図類は、その一環として購入されたものです。平成17年(2005)以降、大学院地域社会研究科の長谷川ゼミで当該絵図類の調査が実施され、年代が不明な資料に関しても研究が進み、ここに貴重資料として指定するに至りました。

各絵図の内容については、以下の通りです。

①阿仁鉱山二ノ又山鋪図 1鋪 紙本著色 文久3年(1863)

阿仁二ノ又鉱山の山支配人伊藤真楽が秋田藩山役人の杉原源之助へ進上した同山絵図であり、坑道図でもあり、<sup>おおたて</sup>大楯・<sup>ひ</sup>砒などと称される銅鉛<sup>ひどおし</sup>の砒通（鉱脈の分布状況）が朱線で描かれて、嘉永6年如月(1853年2月)に鉱山改めを行った際に作成され、文久3年に藩へ進上されたと推定されます。

②阿仁銀山町絵図 1鋪 藩政時代 紙本著色 阿仁銀山町の絵図。図中に「銀山上新町」「銀山下新町」「畠町」「寺」「愛宕社」「山神社」「行人」「神明社」等の記入が見え、藩政時代阿仁鉱



⑤の阿仁鉱山一ノ又山全図の部分

山の町方を様子を知るのに好適の資料です。

③阿仁鉱山一ノ又山境図 1 鋪 近代 紙本著色

同図には、鉱山建物、人民借地などの用語が見えるので、近代に入ってからのものであると考えられます。鉱山の範囲を黒線で囲って、その中に採掘場と想定される面積と沢名が書かれていますので、採掘権の確認のために作成したのでしょう。近代初頭の阿仁鉱山の状況を知る上で貴重です。

④阿仁鉱山一ノ又山鋪図 1 鋪 藩政時代 紙本著色

一ノ又山鉱山の鋪図。図中に御台所おだいどころ（藩政時代の鉱山事務所）と柵、鋪口（坑口）と各坑夫の家々が描かれています。四角の朱線で記された箇所には、本来は地名などが記入されるはずですが、空欄になっているので、当絵図は未完成であった可能性があります。

⑤阿仁鉱山一ノ又山全図 1 鋪 天保 10 年

(1839) 代と推定 紙本著色 (上掲の写真参照)

当絵図は、阿仁鉱山のうち一ノ又銅山領内を描いたもので、図中に方位と地理的な目印が示され、御台所（鉱山事務所）や蔵、神社・堂、役人およ

び鋪主・本番主や坑夫たちの住居がみえます。住居の有無で神社・堂が区別され、住居の形態も少しずつ異なるなど建物の形態が精細に描き分けられており、さらに鋪主や労働者の住居については、「鋪主理助」、「床大工万助」のように職種と名前の両方を記し、鉱山の内に各職種の者が住んでいたことを明示しています。

当絵図は、藩政後期に秋田藩が山領内の建物や住居の分布状況を詳しく把握するために公的な目的で作成した絵図であり、詳細な鉱山絵図として貴重な価値を持ちます。

附属図書館では、当絵図の裏打ちをして、絵図の劣化を防ぐ措置をしました。

以上のことから、「秋田阿仁鉱山関係絵図」は、近世から近代にかけての秋田阿仁鉱山の歴史を解明する上で貴重な資料です。今後、阿仁鉱山のみならず前近代の鉱山史の研究に不可欠の史資料として広く活用が期待されます。

【参考】土谷紘子「『阿仁鉱山一ノ又山全図』の解析・考察を中心とした『秋田阿仁銀山之絵図』

(弘前大学附属図書館蔵)の研究」(『弘前大学大学院地域社会研究科年報』第2号 平成18年)

(はせがわ せいいち)

## 本との出会いを楽しむ 第8回

### 心に響いた言葉

白神自然環境研究所助教 山岸 洋貴



私は読書家というにはほど遠く、学生の頃からもっぱら専門書や図鑑などといった実用本ばかりを手にとってきました。これまで読んできた専門書は自分の研究分野に関わるものが多く、その中でも生物進化に関わるものは非常に面白いものばかりでした。学生の頃は、専門用語に文意がとれないことが多々あり苦労しましたが、いろいろと経験を積みあらためて読み直すと新たな発見に気づかされたりします。手軽に「そういえば・・・」と思い、すぐに本棚から取り出し再び読む事ができる本は、研究者として研究を進める上で無くてはならない存在の1つだと感じます。もちろん研究者としてではなくとも、私にとって本は大事な存在です。これまでの人生の中でもっとも共感でき、心に響いた言葉を教えてくれたのはとある小さなエッセイ集でした。その本で紹介された言葉は思い出す度に何度も私の心を豊かにしてくれますし、勇気づけられる事さえあるのです。

皆さんは星野道夫さんという写真家をご存じでしょうか。アラスカの動物を中心に撮り続け、生命力あふれる画角、透明感のある風景の写真集は有名で、ひょっとしたらどこかでその写真をみなさんも目にした事があるかもしれません。星野さんは、1996年、取材先のカムチャッカで熊に襲われて亡くなってしまったのですが、生前、アラスカの自然や原住民の暮らしについて書かれたエッセイ集や紀行文をいくつか残されています。その中の1冊「旅をする木」の「もう1つの時間」というエッセイに以下のような素敵な言葉がありました。

以下抜粋

ある夜アラスカの氷河の上で、友人と今にも降ってきてそうな星の下で話をしている。

「いつか、ある人にこんなことを聞かれたことがあるんだ。例えば、こんな星空や泣けてくるような夕陽を一人で見ていたとするだろう。もし愛する人がいたら、その美しさやその時の気持ちをどんなふうに伝えるか?って」

「写真を撮るか、もし絵が上手かったらキャンパスに描いて見せるか、いややっぱり言葉で伝えたらいいのかな。」

「その人はこう言ったんだ。自分が変わってゆくことだって・・・ その夕陽を見て、感動して、自分が変わってゆくことだと思うって」

以上

私にとって、この言葉は衝撃でした。この言葉は、人間の生き方すら教えてくれるような深い言葉に感じました。何か心から物事を伝えたい時、あるいは何か行動する時、他の何かに頼るのではなく自分自身を高め、変えていく必要がある。そんな言葉として私の胸に深く刻まれています。

「旅をする木」のほか、「長い旅の途中」、「ノーザンライツ」などといった星野さんのエッセイ集や紀行文の中には、この他にも素敵な言葉達がたくさんありました。また写真集さながらの美しい写真も添えられているので、一休みに眺めるのも非常に楽しいです。

(やまぎし ひろき)

## 図書館に関する話題 第8回

### 四庫全書電子版と四庫全書存目叢書補編

人文学部教授 植木 久行



平成 20 年から始まった附属図書館文系図書整備 5 か年計画のもとに、中国関係図書として、高額な文淵閣四庫全書電子版 (CD-ROM) と『四庫全書存目叢書補編』(全 100 冊) が購入された。前者は参考図書室の CD-ROM 検索コーナーで利用でき、後者は旧書庫 2 層に置かれ、付された目録索引 (1 冊) を利用して閲覧・借用できる。この紙面を借りて、購入された 2 種の価値の一端に触れて、利用の促進を図りたい。

四庫全書とは、清の乾隆帝が当代屈指の学者を結集し、古今の重要な書籍を全国から集め、すでに散佚した書籍も明代の『永樂大典』を利用して復元し、考証・校勘を行った上で、経・史・子・集の四部に分類・筆写した、空前の一大叢書である。収録された書籍は 3,400 余種、79,000 余巻、36,000 冊に達し、ほぼ 10 年の歳月をかけ、乾隆 46 年 (1781)、最初の一部が完成した後、合計 7 部が作成され、文淵閣 (北京紫禁城、現在、台湾故宮博物院所蔵) 等、7 か所に分置された。(現在、2 部が完存)

1986 年、文淵閣本四庫全書の影印 1,500 冊が、台湾商務印書館から刊行された。附属図書館には、残念ながらこの冊子体の文淵閣本は所蔵されていない。近年、中国では漢籍の電子化が急速に進み、

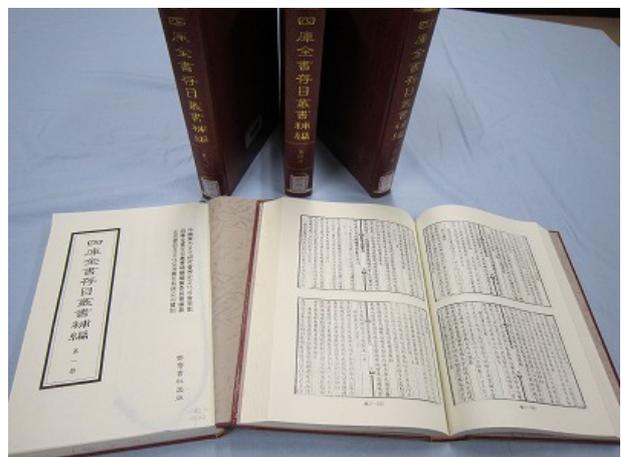
この文淵閣四庫全書本も、ついに 2000 年、迪志文化出版有限公司から電子版が出た。若干、入力・校正ミスは認められるが、中国学 (中国文化の影響を受けた日本学) を研究・調査する学生・教員にとっては多大の朗報である。検索方法の 1 つ、全文検索は 3,400 余種の資料を瞬時に検索できる。ただし四庫全書本には、文字の改竄、文章の削除、抄写の誤り、版本の粗悪さ等の欠陥もあるので、要注意である。それはともかく、膨大な資料中から瞬時に研究資料を集め、典拠・用例を調査できる利便性は絶大であり、これを卒論作成に有効に活用したゼミ生も出ている。

『四庫全書存目叢書補編』の存目とは、四庫全書中に収録された著録本に対して、重要度が劣るとして『四庫全書総目提要』中に解題のみが見える存目書を指す。1995~97 年、まず『四庫全書存目叢書』(全 1,200 冊、4,508 種、斉魯書舎) が、続いて 2001 年、『四庫全書存目叢書補編』(全 100 冊、219 種) が刊行された。この 2 種には多くの稀観書が含まれている。前者は未所蔵であるが、後者だけでもかなり有用である。ただしこれを利用するためには、個々の書籍が OPAC で検索できる必要がある。その実現を強く望みたい。

(うえき ひさゆき)



文淵閣四庫全書電子版



四庫全書存目叢書補編

## 平成23年度附属図書館職員研修 ～震災等の災害時救命救急について～

8月3日、弘前地区消防事務組合東消防署柘形分署より2名の方を講師に迎え、附属図書館に於いて「震災等の災害時救命救急について」をテーマに職員研修を行いました。

研修には27名の学術情報課職員が参加しました。はじめに講師から現場における実体験や落下物の下敷きになった被災者への具体的な対処方法などを交えた応急手当の基礎知識を学び、その後2班に分かれ心肺蘇生法（人工呼吸・胸骨圧迫）、AEDの使用方法を人型模型を使用しながら学びました。

心臓停止になってから5分以上血流が止まると救命率が大きく下がること、救急車が到着するまでの救命救急措置が非常に大切で、心肺蘇生も、しないのと、力が弱くてもしていた状態とでは助かった後の回復力が全く違うことなど、心肺蘇生法の原理がわかり、また、AED実習後半では数名でチームを組み、119番とAEDの依頼→心肺蘇生（人工呼吸2回→胸骨圧迫30回サイクルを繰り返す）→AED操作→到着した救急隊員に引き継ぐまでを連続させた実習を行いました。講師の先生からも「人命救助には、知識・技術・体力・勇気が必要ですが、最も重要なのは行動を起こすことです。」とお話があり、胸骨圧迫など体力が必要な心肺蘇生では各自積極的に交替を行うなど一人一人の意識強化が図られた有意義な研修となりました。



本館閲覧室での研修の様子



心肺蘇生・AED操作実習の様子

(学術情報課長 工藤弘文)

## ラーニングスペース・スクエア オープン

8月から図書館本館3階に整備を進めてきたラーニングスペース・スクエアが9月末に完成し、10月19日から全面オープンしました。また、オープン初日には、遠藤学長をはじめ、各副学長・理事をお招きして完成披露を行いました。

ラーニングスペース・スクエアは全てグループでの利用が可能な施設となっています。従来の図書館で

は個々の学生の勉強のための静かな空間を確保することが第一でしたが、ラーニングスペース・スクエアはリラックスした雰囲気での議論できることをコンセプトに、図書館内資料や図書館HP等で提供している電子的資料も利用できるような各種情報機器も利用できる環境を整備しました。ラーニングスペース・スクエア以外のフロアは静かな空間を維持することとし、目的によって使い分けられるようになっています。

オープンした施設は、ラーニングスペース（3室）とラーニングスクエアで構成されています。ラーニングスペースでは情報資源を活用した学習に対応する機器も用意しています。また、無線LANの環境が整っており、ご自分でお持ちのPCで学習することも可能です。

### ラーニングスペース (Learning Space : グループ学習用3室)

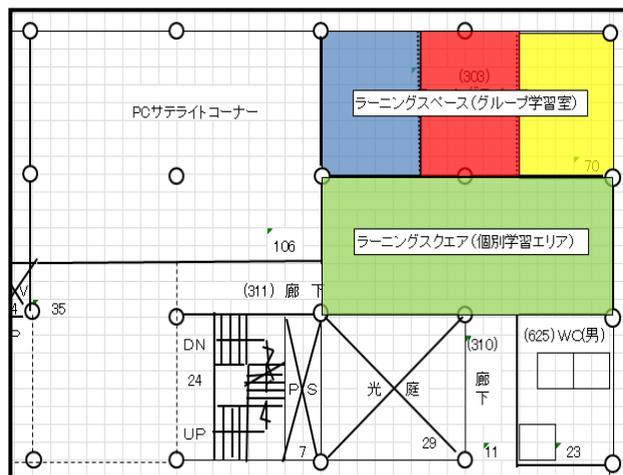
少人数のグループ学習やゼミ内の会議、サークルの打ち合わせなど、いろいろな目的での利用が可能です。また、様々な情報資源から得られる情報を用いて議論や共同作業などを進めていく学習スタイルを可能にする場です。机やイスは移動可能なものを用意し、増減が可能な利用形態としています。また、各室を仕切っているパーティションを開放することで多人数での利用も可能です。情報機器は液晶プロジェクター1台、電子ホワイトボード2台、館内貸出用PC5台の利用ができます。



遠藤学長の視察（平成23年10月19日）

### ラーニングスクエア (Learning Square : 個別学習エリア)

PCを利用しながら、資料も余裕で広げることのできるテーブルを設置しています。紙の資料と電子資料の両方を使いながらレポートをまとめたり、グループで議論しながらそれぞれの作業をしたりと、いろいろな利用の仕方ができるスペースです。



本館3階整備図面

利用予約は図書館HPのMy Libraryから申請できます。また、電話（内線3162）及び直接来館による予約もできます。利用手続き等について不明な点等がありましたら、職員へお気軽にお尋ねください。新たな設備で快適に学習、研究が進むよう願っています。

（学術情報課長 工藤弘文）

# 本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成23年4月～平成23年9月分受贈分

部名	寄贈者名	資料名	発行所	数	所蔵館
人文学部	山田巖子	唱導文化の比較研究	岩田書院	1	本館
		民俗のなかの植物：日韓比較の視点から： 国立歴史民俗博物館国際研究集会成果報告書 = 민속과 식물：한일비교 시점에서	国立歴史民俗博物館	1	本館
	柴田英樹	会計士の監査風土：会計士は不正のトライアングルを断ち切れるか	プロGRESS	1	本館
	松井太	吐魯番学研究：第三届吐魯番学暨欧亚游牧民族的起源与迁徙国际学术研讨会论文集	上海古籍出版社	1	本館
	杉山祐子	ジェンダー人類学を読む：地域別・テーマ別基本文献レビュー	世界思想社	1	本館
		アフリカ地域研究と農村開発	京都大学学術出版会	1	本館
	保田宗良	消費者のためのマーケティング・エッセンス	日本教育訓練センター	1	本館
	長谷川成一	一八世紀日本の文化状況と国際環境	思文閣出版	2	本館
	亀ヶ岡文化研究センター	縄文デザイン集	弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター	2	本館
佐藤蒞考古画譜		弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター	2	本館	
教育学部	郡千寿子	関西文化研究叢書 別巻（往来物の文明学）	武庫川女子大学関西文化研究センター	1	本館
		関西文化研究叢書 別巻（小特輯地域往来の世界）	武庫川女子大学関西文化研究センター	1	本館
		関西文化研究叢書 別巻（未定稿・往来物に見られる七夕歌）	武庫川女子大学関西文化研究センター	1	本館
	富田晃	津軽三味線 - TSUGARU-JAMISEN -：一音に込める激情繊細の世界	デジタルセンセーション	1	本館
		Beatles on the Steelpan：PAN!PAN!PAN!スティールパンで聴くビートルズ	ビクター	1	本館
		Air on the Steelpan：スティールパンで聴くサティ&バッハ	ビクター	1	本館
		スティールパンで聴く沖縄音楽	Respect Record	1	本館
		スティールパンで聴くスタジオジブリ作品集	Respect Record	1	本館
		グラスハーブで聴くやすらぎのクラシック	OMAGATOKI	1	本館
		グラスハーブで聴くやすらぎのスノーフレイク	OMAGATOKI	1	本館
		スティールパンで聴くやすらぎのクラシック	OMAGATOKI	1	本館
CLAIR DE LUNE：Claude DEBUSSY	OMAGATOKI	1	本館		
Westerhoven	1q84：[quatienvierentachtig]	Atlas	1	本館	
医学研究科	若林孝一	脳卒中を知る：「アタリ」を予防するために	弘前大学出版会	1	分館
	今泉忠淳	写真集 自転車屋 50 景	水星舎	2	本館 1, 分館 1
	兼子直	てんかんの薬物療法：新たな治療薬の導入後	新興医学出版社	2	分館
保健学研究科	保健学研究科	The Proceedings of The 2nd international Symposium on Radiation Emergency Medicine at Hirosaki University	弘前大学出版会	1	本館
		緊急被ばく医療人材育成プロジェクト 平成 22 年度活動成果報告書	弘前大学大学院保健学研究科	2	本館 1, 分館 1
弘前大学医学部 鵬桜会	大平千秋	卑弥呼とセバクネフェル女王	鳥影社	2	本館 1, 分館 1
	秦温信	北辰の如く	北海道出版企画センター	1	分館

弘前大学 名誉 教授	篠邊三郎	句集 巢立鳥(1-3)	篠邊三餘	1	本館
	松木明知	津軽の文化誌IV	津軽書房	2	本館 1, 分館 1
弘前大学出版会		Seishu Hanaoka and his medicine : a japanese pioneer of anesthesia and surgery	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		Seishu Hanaoka and his medicine : a Japanese pioneer of anesthesia and surgery (Second Edition)	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		The 2010 Hirosaki University International Symposium	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		しなやかな小学校の先生をめざして(小学専門科学実験の手引き)	弘前大学出版会	2	本館
		ものづくりに生きる人々 : 旧城下町・弘前の職人	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		基礎物理学実験の手引き (平成 23・24 年版)	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		憲法理論研究	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		弘前大学総合文化祭 10 周年記念写真集 未来へ繋がる	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		小学専門科学実験の手引き	弘前大学出版会	1	分館
		知能機械工学実験Ⅲ・知能機械工学設計 (平成 23 年度)	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		知能機械工学実験 A・知能機械工学設計 A	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		白神自然観察園の植物 (1 林床植物編)	弘前大学出版会	2	本館
		白神自然観察園の動物(1 概要編)	弘前大学出版会	2	本館
		脳卒中を知る : 「アタリ」を予防するために	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		平均寿命をどう読む? : より平易に、より分かりやすく、より科学的に健康を語りたい	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		未利用バイオマスとしてのりんご剪定枝の活用戦略	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		臨床内分泌・代謝学 (改訂第 2 版)	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
弘前大学 附属図書 館	太宰治自筆 ノート研究プ ロジェクト	平成 22 年度 太宰治自筆ノート研究プロジェクト 成果報告集	弘前大学附属図書館	2	本館
弘前大学生協同組合		弘前大学卒業記念アルバム 平成 22 年度	弘前大学卒業アルバム編 集委員会	1	本館

	弘前大学附属図書館報「豊泉」第 3 4 号	発行日：平成 2 3 年 1 1 月 3 0 日
	編集／弘前大学附属図書館広報委員会 発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL <a href="http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/">http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/</a>	

標題の「豊泉」は、明治 9 年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、  
 松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」（三省堂）より